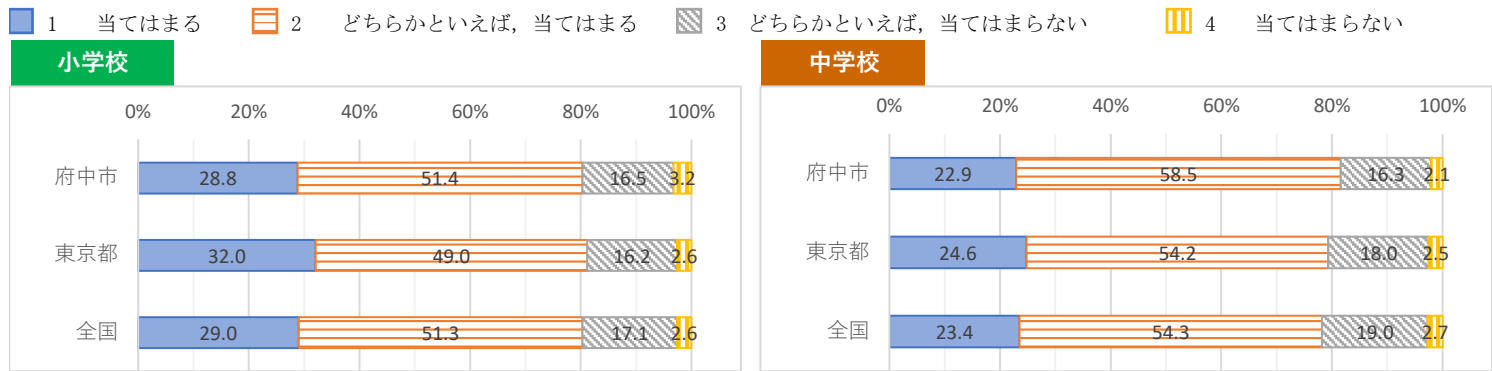


1 児童・生徒質問紙から (1)主体的な学び

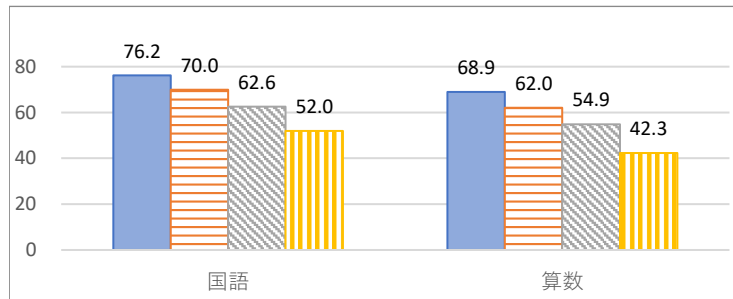
5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

設問項目 小学校（32） 中学校（32）

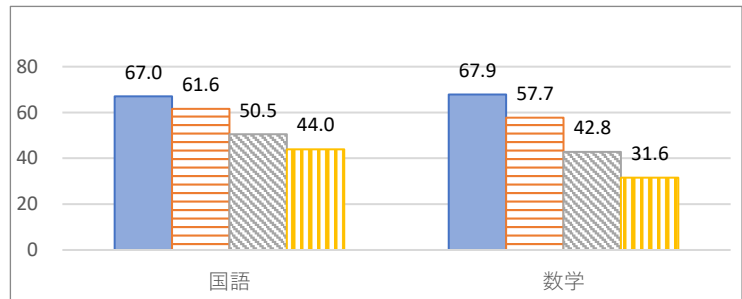
【主体的な学び(学習の進め方)】



選択肢ごとの平均正答率



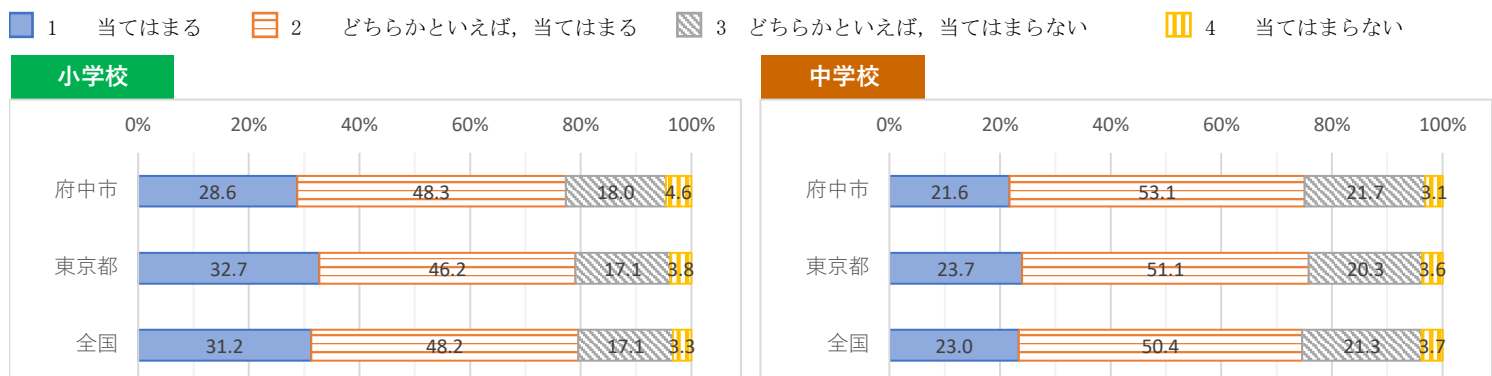
選択肢ごとの平均正答率



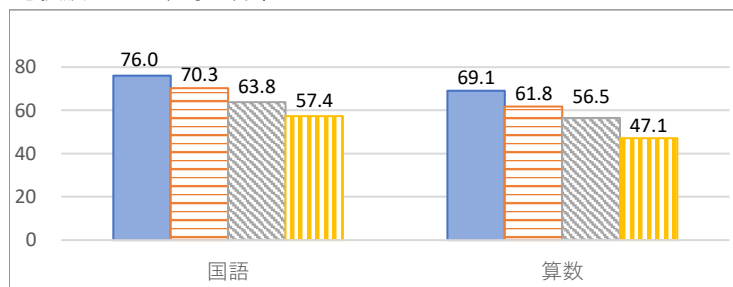
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

設問項目 小学校（36） 中学校（36）

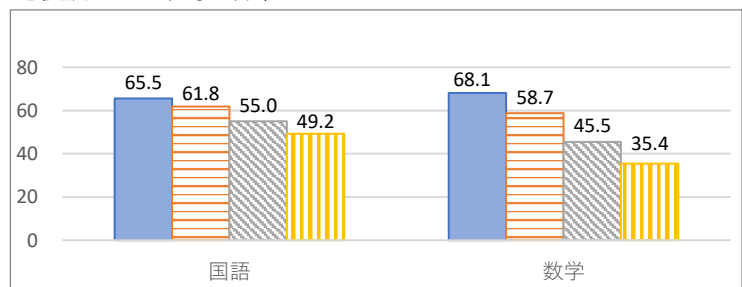
【主体的な学び(学習の調整)】



選択肢ごとの平均正答率



選択肢ごとの平均正答率



学習の進め方（工夫しながら学習を進める）では、肯定的な回答が小学校は都及び全国とほぼ同様に、中学校は都及び全国より高く、課題解決に向けて見通しをたて、方法を選択して取り組むなど、自ら考えて課題に取り組む姿勢がある程度定着している。

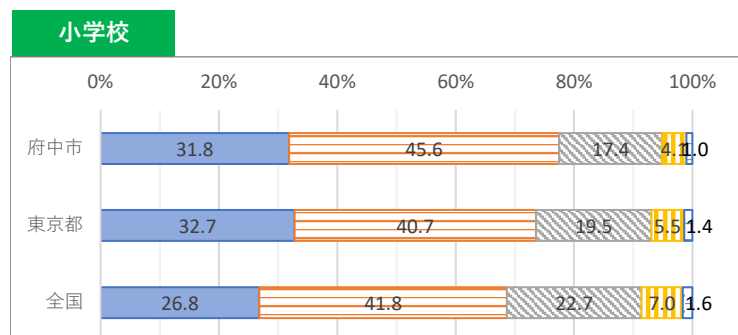
学習の調整（自己の学習状況を把握し調整すること）については、小学校は都及び全国より低く、中学校は都とほぼ同様に全国より高い。授業では、児童・生徒が主体的に目標や課題を発見し、学習の見通しを立てて実践したり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫することで、課題解決に向けて集団や自己の状況を把握・調整する力を育成し、主体的な学びの質を高めることが重要である。

1 児童・生徒質問紙から (2)思考力・判断力・表現力の育成

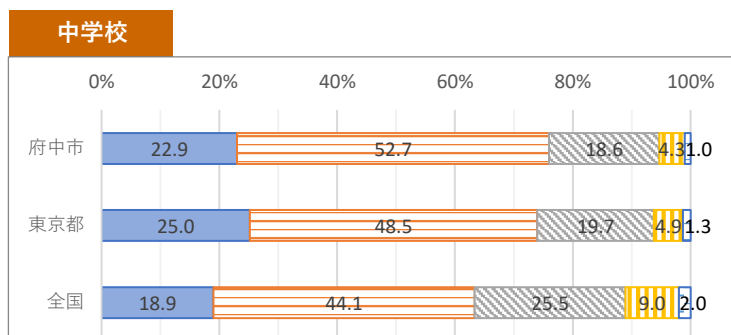
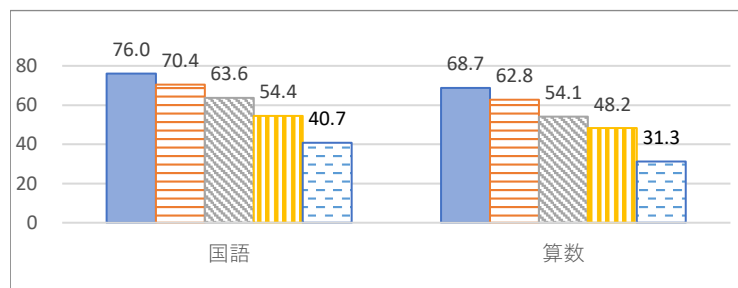
5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

設問項目 小学校 (31) 中学校 (31)

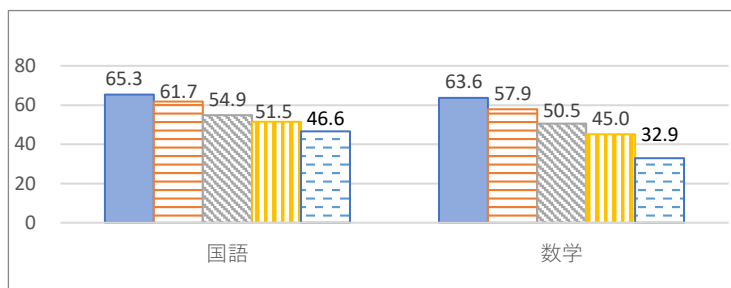
- 1 発表していた 2 どちらかといえば、発表していた 3 どちらかといえば、発表していなかった
4 発表していなかった 5 考えを発表する機会はなかった



選択肢ごとの平均正答率



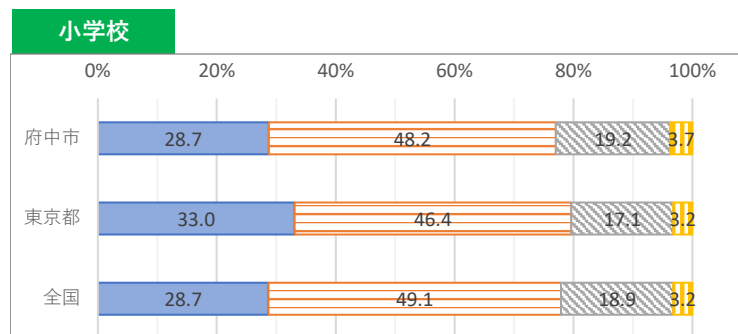
選択肢ごとの平均正答率



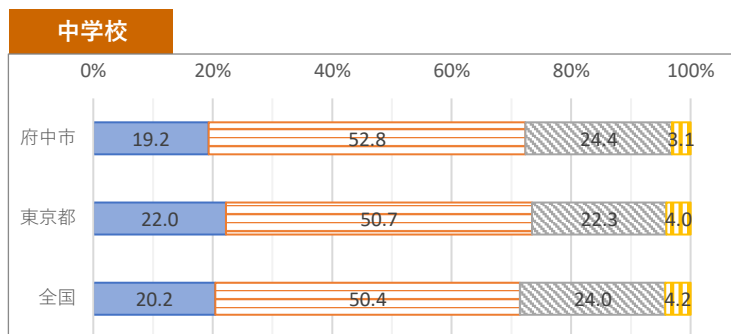
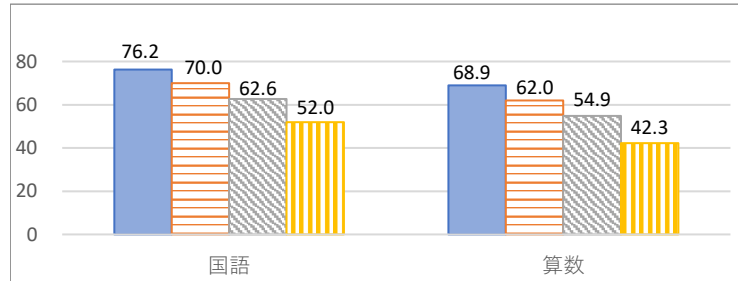
5年生まで（1、2年生のときに）受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

設問項目 小学校 (33) 中学校 (33)

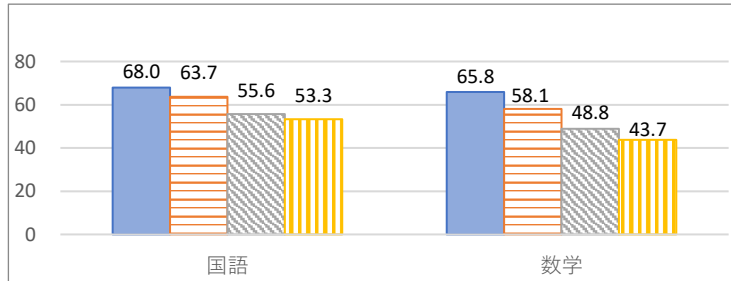
- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



選択肢ごとの平均正答率



選択肢ごとの平均正答率



小・中学校ともに「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していた」と回答した児童・生徒の割合が都及び全国より高く、授業等の中で自分の考えを発表する機会や、自分の考えをまとめる活動が充実していたと考えられる。特に中学校では、自分の考えをまとめる際に、各教科等で身に付けたことを生かすことができていると考えられる。

授業では、児童・生徒が課題解決や自己実現に向けて、より目的意識と相手意識をもって自分の考えを伝えることを意識させていくことや、他者との対話を通して多様な考え方や価値観に触れて考えを深めたり、合意形成を図ったりできるようにすることが重要である。

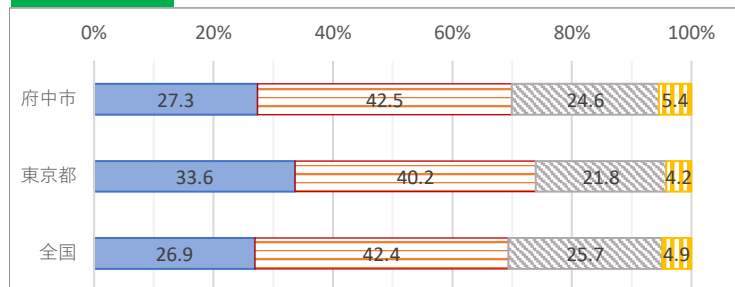
1 児童・生徒質問紙から (3)ICTを活用した学習

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか

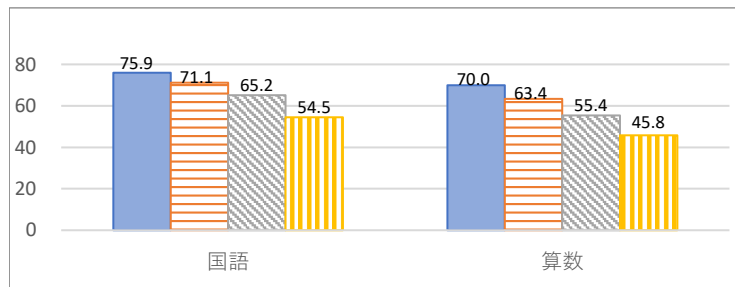
設問項目 小学校 (29) 中学校 (29)

1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

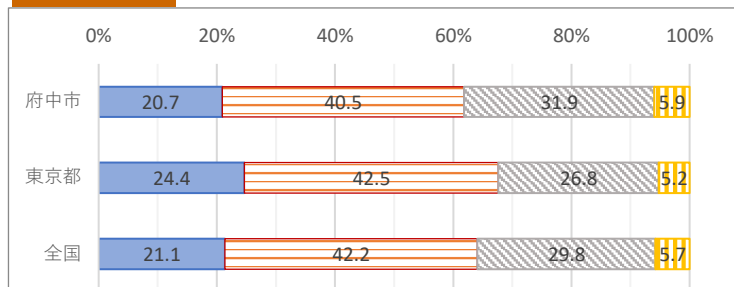
小学校



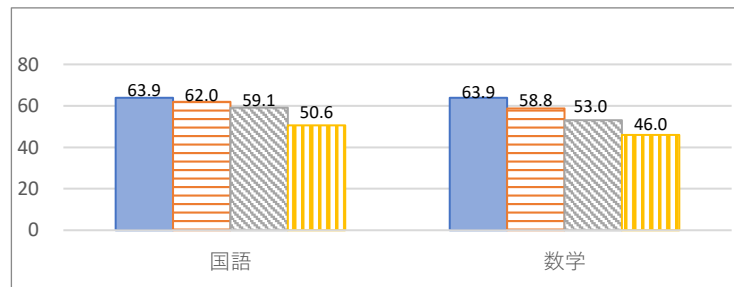
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率

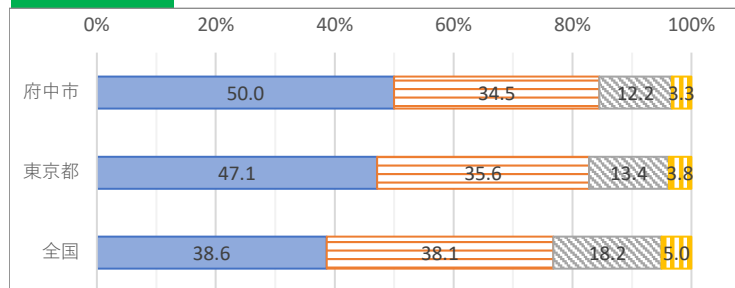


あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか

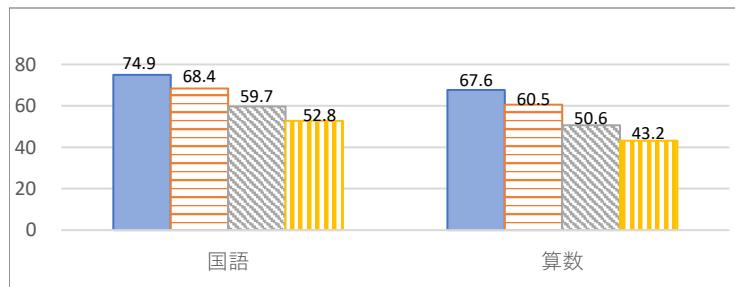
設問項目 小学校 (29) 中学校 (29)

1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

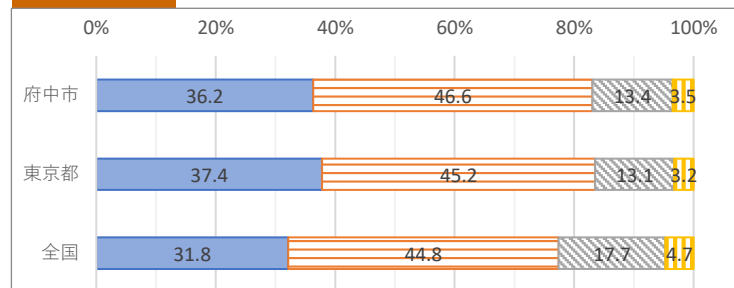
小学校



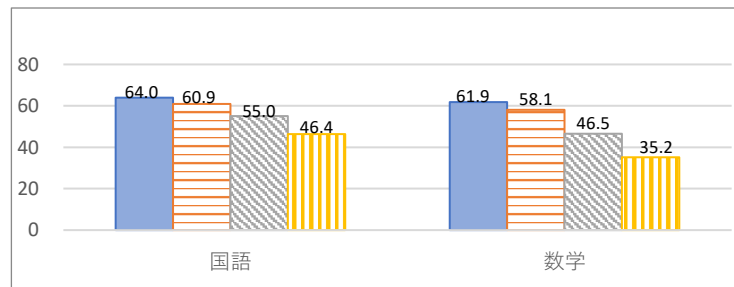
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率



小学校では、ICT活用に肯定的な回答が都及び全国より高く、中学校では全国と同様または高くなっている。児童・生徒はタブレット端末を使って情報を整理したり、プレゼンテーション資料を作成したりする力が概ね身に付いていると考えられる。

ICT機器活用の効力感に関して、肯定的な回答をしている児童・生徒ほど、各教科で自分の考えを工夫してまとめたり発表したりする活動に前向きに取り組んでいた傾向がある。授業では、単にICT機器を使えるようにするだけでなく、児童・生徒が自ら情報を取捨選択し、目的に応じて最適なツールや方法を選び、主体的に活用できる力を育てることや、ICT機器を活用した協働的な学びを通じて、他者と意見を共有し合い、協働して課題解決に取り組む経験を積ませることが重要である。

1 児童・生徒質問紙から (4) ウェルビーイングの向上

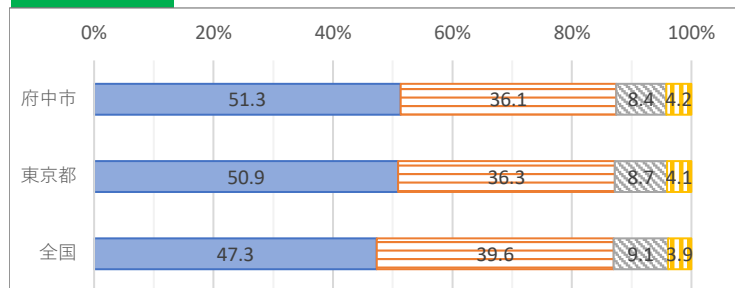
自分には、よいところがあると思いますか

設問項目 小学校 (5) 中学校 (5)

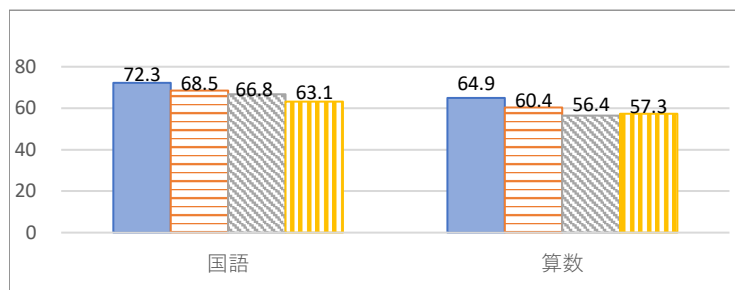
1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる

3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない

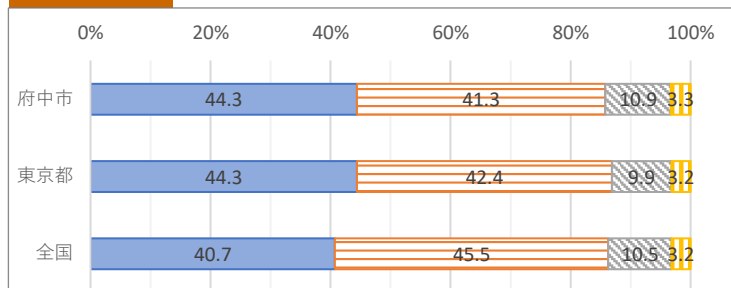
小学校



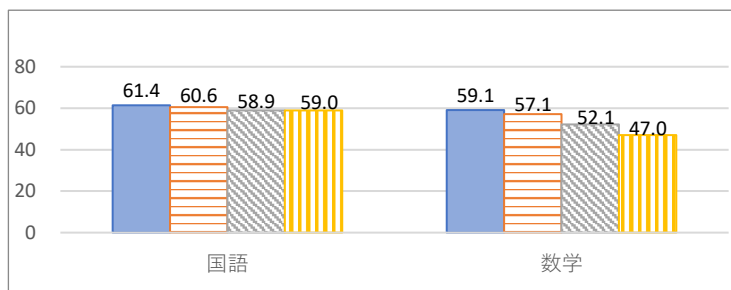
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率



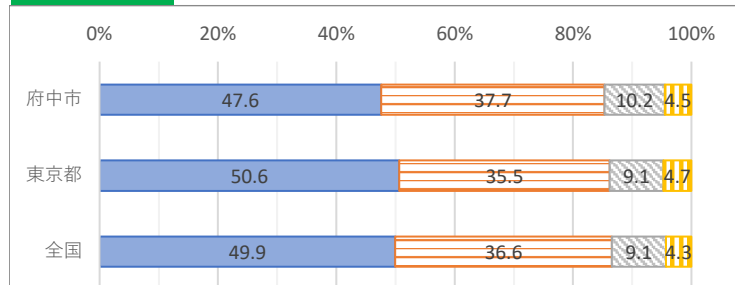
学校に行くのは楽しいと思いますか

設問項目 小学校 (12) 中学校 (12)

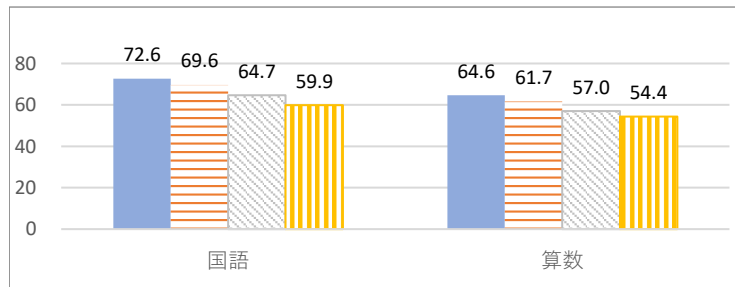
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる

3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

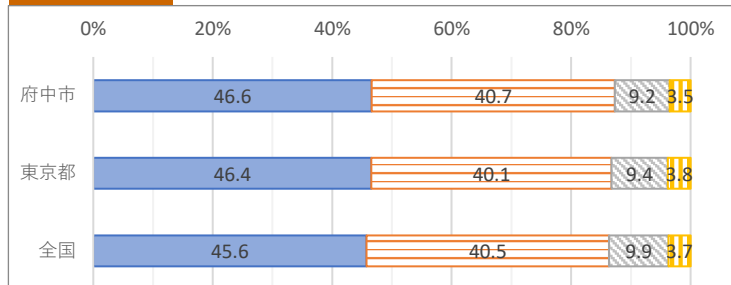
小学校



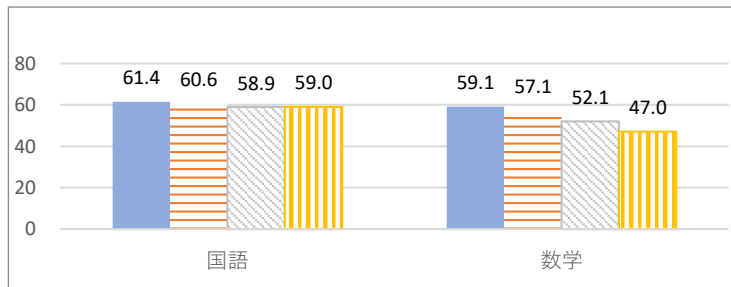
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率



小・中学校ともに「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」と肯定的に回答した割合が高く、自己肯定感や学校への満足度は都及び全国とほぼ同様に、高い水準にある。

学校は、児童・生徒が心身ともに健康で、安心して学びに向かえる環境を整えるために、児童・生徒一人ひとりの個性や多様性を尊重し、自己肯定感や自己効力感を高める取組を継続的に行うことが重要である。また、いじめや不登校等の課題の未然防止や早期支援に向けて、適切に対応できる組織的な体制を整えることが重要である。

「ウェルビーイング」とは、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味し、学校におけるウェルビーイングの向上を図ることは、児童・生徒の学力向上や主体的な学びを支える土壌を整えることにつながっていく。今後も学校全体で児童・生徒の心理的安全性の確保に務めることが重要である。

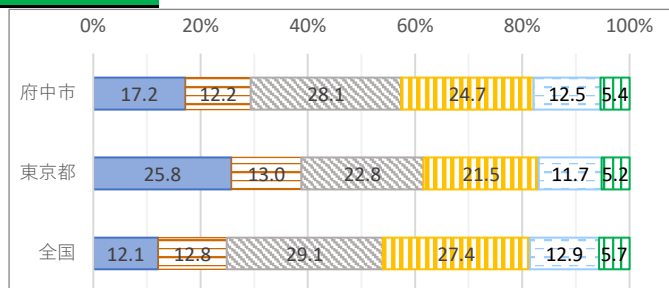
1 児童・生徒質問紙から (5) 家庭学習

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

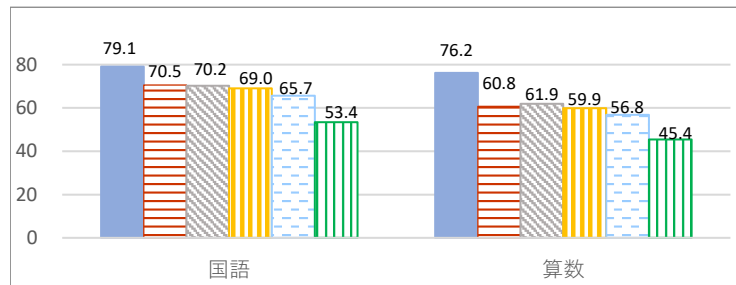
設問項目 小学校 (17) 中学校 (17)

1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない 4 30分以上、1時間より少ない
5 30分より少ない 6 全くしない

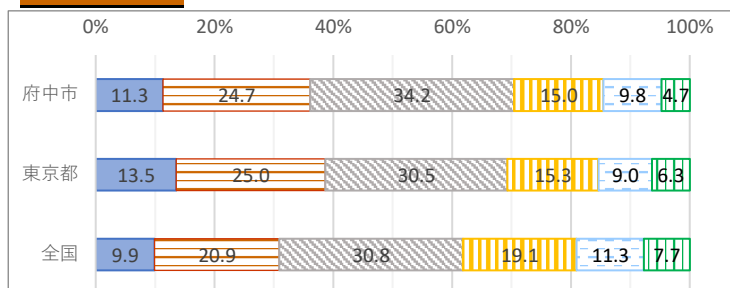
小学校



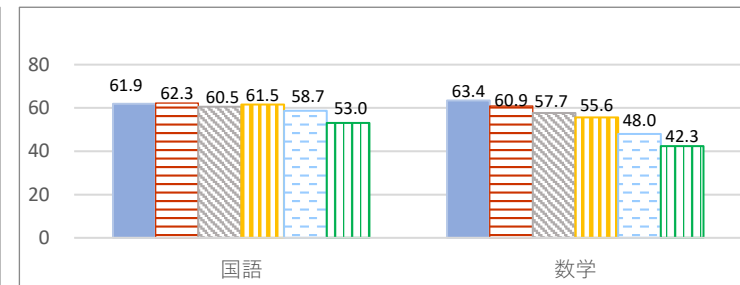
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率

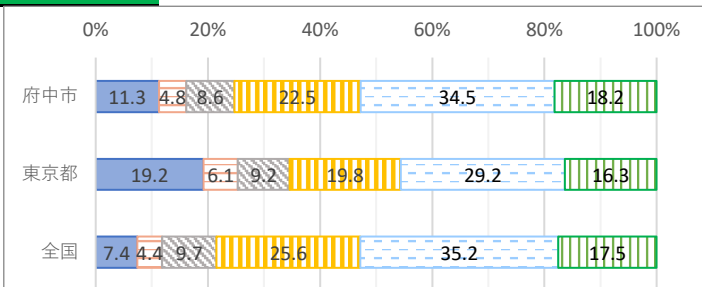


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

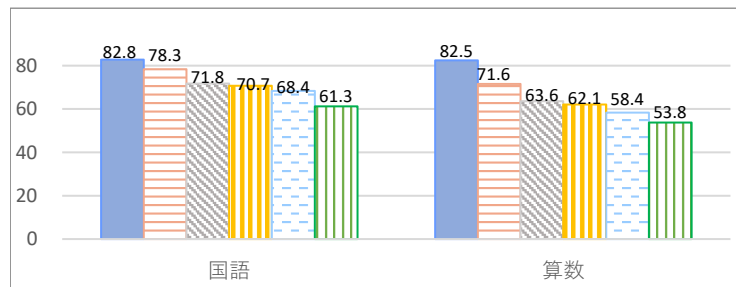
設問項目 小学校 (19) 中学校 (19)

1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない 4 30分以上、1時間より少ない
5 30分より少ない 6 全くしない

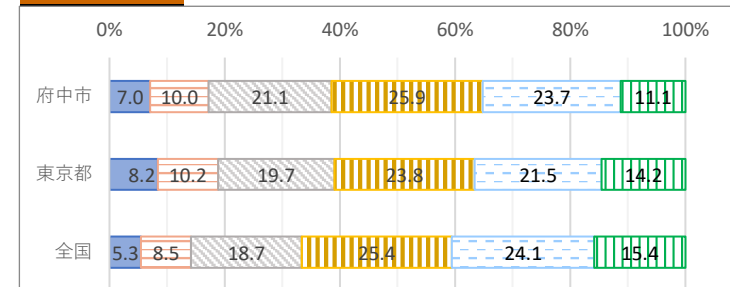
小学校



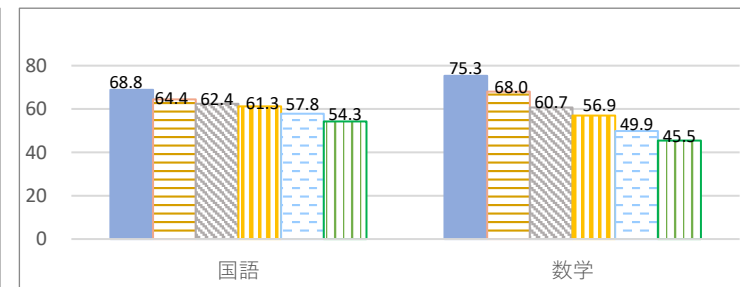
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率



家庭学習の時間について「平日に30分以上行う」と回答した児童・生徒の割合は、小学校は都及び全国とほぼ同様、中学校は都及び全国より高い傾向にあるが、「全くしない」「30分より少ない」と回答した児童・生徒が一定数いる。特に、小学校では土日など学校が休みの日に家庭学習を「全く行わない」児童・生徒の割合が都及び全国より高い傾向にある。

家庭習慣の確立に向けて、家庭との連携を図りながら、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促すなど家庭学習を視野に入れた指導を行うとともに、これを踏まえた家庭での学習課題を課すことが重要である。また、学習者用タブレット端末の活用による授業と家庭学習の接続など、家庭での学習課題の内容や方法の工夫を講じることも重要である。

2 学校質問紙から 学習指導の改善の取組状況

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

設問項目 小学校 (30) 中学校 (30)

[授業改善の視点]

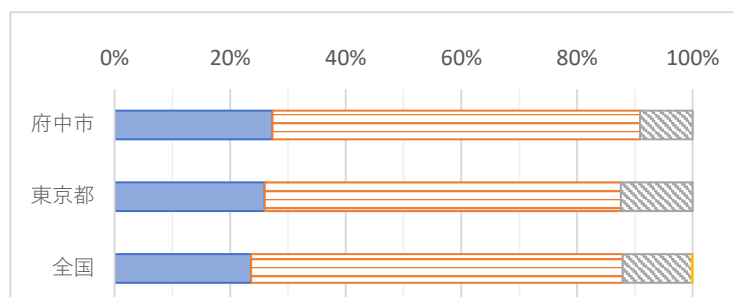
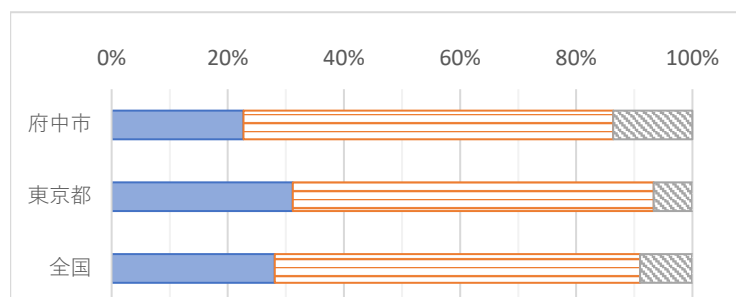
小学校

選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市	22.7	63.6	13.6	0.0	0.0
東京都	31.2	62.2	6.6	0.1	0.0
全国	28.1	62.9	8.9	0.1	0.0

中学校

選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市	27.3	63.6	9.1	0.0	0.0
東京都	26.0	61.6	12.4	0.0	0.0
全国	23.6	64.2	12.0	0.1	0.0

■ 1 よくしている ■ 2 どちらかといえば、している ■ 3 あまりしていない ■ 4 全くしていない



調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習指導において、児童（生徒）が、それぞれのよさを生かしなが
ら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫
しましたか

設問項目 小学校 (30) 中学校 (30)

[授業改善の視点]

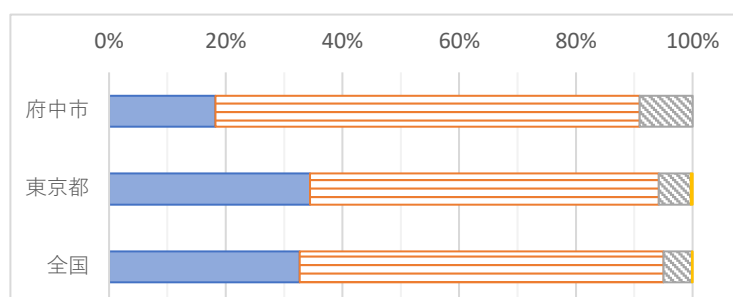
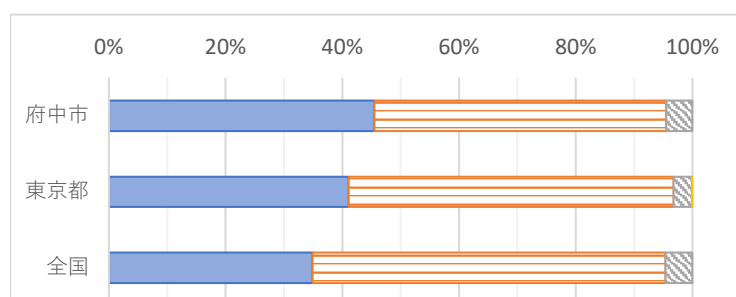
小学校

選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市	45.5	50.0	4.5	0.0	0.0
東京都	41.1	55.7	3.1	0.1	0.0
全国	34.9	60.4	4.6	0.0	0.0

中学校

選択肢	1	2	3	4	他・無回答
府中市	18.2	72.7	9.1	0.0	0.0
東京都	34.4	59.7	5.5	0.3	0.0
全国	32.7	62.3	4.9	0.1	0.0

■ 1 そう思う ■ 2 どちらかといえば、そう思う ■ 3 どちらかといえば、そう思わない ■ 4 そう思わない



学校では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが求められており、児童・生徒一人ひとりの理解度や興味・関心、得意なことなどに応じて、学習課題や活動を工夫すること（学習の個性化、指導の個別化）が重要である。

また、他者と意見を交流し、多様な視点を取り入れながら協働して課題解決に取り組む経験は、思考力、判断力、表現力等の育成やコミュニケーションを育むことにつながっていく。

学校では、児童・生徒の多様な学びを支えるために、個別最適な課題設定や活動の工夫を一層推進するとともに、協働的な学びの場面を意図的に設けることが求められる。そして、教職員間で実践事例を共有し合い、授業改善の取組を全校的に広げていくことが重要である。